

科目名	福祉思想
科目責任者	福田 俊子
単位数他	2単位 (30時間) 選択 秋
科目の位置付	(1)「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身に付け、研究・実践及び自らの行動に反映することができる。
科目概要	<p>我が国における少子高齢社会の到来は、日本社会のあり方を根底的に揺さぶる事象となっている。このような状況にある今だからこそ、社会や人の基盤を支える「思想」が、改めて重要な意味をもつようになってきている。</p> <p>本講義では、現代の日本社会が直面する問題を見据えながら、これまでの福祉思想の歴史を振り返り、今後の日本社会で求められる福祉思想のありようについて考察する。</p>
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 我が国の福祉思想の歴史について、その概略を説明できる。</li> <li>2. 自らの臨床体験を支える福祉思想について、自分の言葉で説明できる。</li> </ol>
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p>第1回： オリエンテーション</p> <p>第2回： 「福祉」の意味と幸福</p> <p>第3回： 「幸福」は政策目標となりうるか</p> <p>第4回： 福祉を考える座標軸</p> <p>第5回： 福祉思想の再構築</p> <p>第6回： 社会構想ー持続可能な福祉社会へ</p> <p>第7回： 中間のまとめ</p> <p>第8回： 福祉と「宗教」① なぜいま宗教の公共的役割なのか</p> <p>第9回： 福祉と「宗教」② 相互扶助の宗教伝統をどう現代に活かせるか</p> <p>第10回： 福祉と「宗教」③ 賀川豊彦と公共福祉</p> <p>第11回： 福祉と「宗教」① 創発民主主義の展開</p> <p>第12回： 「生命」と日本の福祉思想① 歴史の中の福祉ーその萌芽から現代までー</p> <p>第13回： 「生命」と日本の福祉思想② 社会事業家に見る「福祉の哲学」の多様性</p> <p>第14回： 「生命」と日本の福祉思想③ 「生活モデル」から「生命モデル」へ ー自己組織的生命観に基づく福祉思想との関連性ー</p> <p>第15回： まとめ</p>

学修方法	講義、発表、討論を組み合わせて進める
評価方法	プレゼンテーション 20%、授業への参加態度 20%、レポート 60%
課題に対するフィードバック	レポートに評価コメントを付けて返却する。
指定図書	広井良典『福祉の哲学とは何かーポスト成長時代の幸福・価値・社会構想』ミネルヴァ書房
参考書	授業中に随時提示する。
事前・事後学修	履修者は全員、テキストを熟読し、要点をつかんでおく。(30分程度) 発表者は、レジюмеを作成する。(1時間程度) 中間レポートを作成することで、理解の深度をやる。(3時間程度)
オフィスアワー	研究室は 2614。オフィスアワーの時間については、初回授業時に提示する。

科目名	社会福祉政策論
科目責任者	大友 信勝
単位数他	2単位 (30時間) 選択 春
科目の位置付	(3)自らの研究分野以外の幅広い視野を持ち、俯瞰的なものの見方と専門応用力を駆使して、新たな知を創ることができる。
科目概要	社会福祉政策の歩みを、貧困問題を中心にして実証的に分析し、政策形成の要因、特徴を考察する。 戦前の恤救規則、救護法、戦後の旧生活保護法、現在の生活保護法の歩みを歴史的に、社会・経済的な時代背景と社会運動の相互関係をおさえながら政策論的に展開する。
到達目標	社会福祉政策の形成、成立は、主としてどのような社会的要因が影響、関連するのか。いわゆる「対象」となる社会問題か、ときの財政問題か、それとも飴と鞭による政策主体の都合か。いまは、どのような時代なのか。グローバル化、南北問題、市場原理による貧困・格差、世界を不安定化する難民、新たな移民問題とその排除と差別が失業、非正規問題と絡んで複雑に展開している。人権と尊厳、生活と生命を守る社会福祉政策を形成するために、歴史から何を教訓に引き出すのか。これについて、自分自身の意見で語れることが到達目標である。
授業計画	<p>&lt;授業内容・テーマ等&gt;</p> <p>第1回：オリエンテーション  第2回：恤救規則成立の社会的背景と規則の理念、水準、対象  第3回：恤救規則は内務省が管轄し、治安維持が重視された。運営はどうしていたか  第4回：救護法成立の社会的背景はどのようなものか。救護法実施促進運動とは何か  第5回：救護法の成立から実施まで数年を要したのはなぜか。救護法の理念、水準、対象  第6回：救護法はなぜ「骨抜き」されるのか。一般法と戦時立法の関係  第7回：戦時下の厚生事業の目的と性格、主な事業の特徴はどのようなものか  第8回：戦前の惰民観と旧生活保護法の欠格条項にGHQ（連合軍総司令部）の指導  第9回：民生委員から社会福祉主事への切り替えで何が変わったか  第10回：1954年度予算案（大砲かマターか）で生活保護の現場が混乱したのはなぜか  第11回：朝日訴訟の社会的背景と理念、訴えの主な論点や主張  第12回：現場の社会福祉主事たちによる公的扶助研究運動成立の経緯や背景、理念  第13回：低保護率、漏給問題、捕捉率の低さ、貧困率の高さと「123号」通知  第14回：生活保護パッシングと「見守り型」の監視、生活保護ホットライン  第15回：生活困窮者自立支援法と生活保護の関係—これからの貧困政策の課題</p>
学修方法	講義と討議を組み合わせる。

評価方法	レポート 60%、討議への参加 40%で評価する
課題に対するフィードバック	課題提出後の面談を中心にフィードバックを行います。
指定図書	『公的扶助の展開—公的扶助研究運動と生活保護行政の歩み』旬報社
参考書	授業中に随時連絡する。
事前・事後学修	事前学修：シラバスに示したテーマを学修する。(40分) 事後学修：講義内容を振り返る学修(40分)
オフィスアワー	研究室(5703)にて、自由に研究相談に応じます。 時間については、初回授業時に提示する。



学修方法	講義、発表、討論で進めていく
評価方法	プレゼンテーション 30%、討議への参加度 20%、レポート 50%
課題に対するフィードバック	発表、討論のつど、フィードバックを丁寧に行う
指定図書	井岡勉監修 牧里每治・山本隆編『住民主体の地域福祉論』法律文化社
参考書	岡村重夫『地域福祉論』（新装版）光生館 右田紀久恵『自治型地域福祉の理論』ミネルヴァ書房 ほか、授業の中で適宜提示
事前・事後学修	事前に指定図書・論文を熟読する。発表担当者はレジюмеにまとめ、報告する
オフィスアワー	科目責任者の研究室は 2606 です。時間については授業時に提示します。

科目名	介護福祉論
科目責任者	太田 貞司
単位数他	2単位 (30時間) 選択 秋
科目の位置付	「生命の尊厳と隣人愛」の精神を基盤とする倫理観を身に付け、研究・実践及び自らの行動に反映することができる
科目概要	先進国と我が国のケアワーカーの位置づけとその課題を踏まえ、医療やケアと介護福祉の関係、「日常生活を営む」こと支援に関する思想的系譜として、「生活主体者」(一番ヶ瀬)とその後の介護福祉の議論を検討し、介護福祉士誕生後の看護(医療)及びソーシャルワークと介護福祉の概念をめぐる争点を検討する。また、この間に介護現場で形成された介護福祉実践論、介護職の介護職チーム論、およびそのリーダー論を論じ、地域包括ケアシステムにおける介護福祉士の役割機能を実証的に検討し、新たな地域型介護福祉士の可能性を検討する。さらに認定介護福祉士等の介護福祉士のキャリアパスを示す。
到達目標	<ol style="list-style-type: none"> <li>1. 先進国の職能集団・ケアワーカーと我が国の介護福祉士の特徴を説明できる。</li> <li>2. 介護福祉論の諸見解を説明し、地域包括ケアシステムでの介護福祉士の役割機能を説明できる。</li> <li>3. 介護職のチーム、リーダーの意味を理解でき、認定介護福祉士の役割、機能を説明できる。</li> </ol>
授業計画	<p style="text-align: center;">＜授業内容・テーマ等＞</p> <p>第1回：介護福祉の対象、制度、介護福祉実践、理論</p> <p>第2回：諸外国における長期ケアの職能集団・ケアワークの成立と日本の特徴</p> <p>第3回：日本の介護福祉実践の展開：理念・価値、知識、判断、技術の広がり</p> <p>第4回：地域包括ケアシステムと介護福祉：介護職チームとそのリーダーの課題</p> <p>第5回：一番ヶ瀬介護福祉論とその後</p> <p>第6回：看護からの介護福祉論</p> <p>第7回：ソーシャルワークからの介護福祉論</p> <p>第8回：統合論としての介護福祉論</p> <p>第9回：介護福祉実践、介護職チーム、リーダー</p> <p>第10回：地域型介護福祉士</p> <p>第11回：介護職のチーム論：重層的な介護職チーム</p> <p>第12回：介護職チームのリーダー論：認定介護福祉士の役割、機能</p> <p>第13回：リーダー論と人材育成</p> <p>第14回：養成教育と現任者教育の現状と課題</p> <p>第15回：まとめ</p>

学修方法	講義
評価方法	講義への参加度、取り組み 70%。レポート 30%。
課題に対するフィードバック	レポート提出後、レポートにコメントし返却。
指定図書	太田貞司等『生活支援総論』（光生館、2014）
参考書	一番ヶ瀬康子（2003）『介護福祉学の探求』（有斐閣）。太田貞司（2013）「一番ヶ瀬社会福祉論と介護福祉論」岩田正美等編『一番ヶ瀬社会福祉論の再検討―生活権保障の視点と広がり』（ミネルヴァ書房）。太田貞司（2017）「介護職の職能集団の形成とチームリーダー」『京都女子大学生活福祉科紀要』第 12 号。15-27 頁。太田貞司（2017）「共通基礎課程」導入と介護福祉士の今後―「日常生活の営み」支援」日本介護福祉学会『介護福祉学』24（1）42-48 頁。
事前・事後学修	事前に太田貞司「一番ヶ瀬社会福祉論と介護福祉論」を読むこと（10.時間）。事後学修として、介護職チームのリーダーとしての認定介護福祉士の役割、機能をまとめる（10.時間）。
オフィスアワー	授業に関する質問は授業時に直接もしくは教務事務センターを介して受け付けます。